

主 論 文 要 旨

報告番号	甲 ㊦ 第	号	氏 名	田 村 全
主 論 文 題 名 Diagnostic accuracy of lung subtraction iodine mapping CT for the evaluation of pulmonary perfusion in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension: Correlation with perfusion SPECT/CT (慢性血栓塞栓性肺高血圧症の肺血流評価におけるlung subtraction iodine mapping CTの診断能: 血流SPECT/CTとの相関)				
(内容の要旨) 本研究は慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (chronic thromboembolic pulmonary hypertension : CTEPH) もしくはCTEPH疑いである患者の区域毎肺血流評価におけるlung subtraction iodine mapping (LSIM) Computed Tomography (CT) の診断能を肺血流 Single photon emission computed tomography (SPECT) /CTを至適基準として検討する目的に行われた。CTEPHもしくはCTEPH疑いであり、息止め指示に従うことのできる50名(平均60.7±16.7歳)の連続した患者を対象とした。320列CTにて非造影CT及びCT肺動脈造影 (CT pulmonary angiography : CTPA) を撮像し、非剛体位置合わせ後、後者から前者を差分してLSIM画像を作成した。肺血流SPECT/CTはLSIMの2か月以内に撮像し至適基準とした。LSIM及びCTPAにおいて区域毎肺血流を二人の放射線科医によってそれぞれ別々に評価し、合議によって決定した。LSIMの感度、特異度、正確度、陽性及び陰性尤度比はそれぞれ95% (734/773)、84% (107/127)、93% (841/900)、97% (734/754)、73% (107/146) であり、CTPAではそれぞれ65% (505/773)、61% (78/127)、65% (583/900)、91% (505/554)、23% (78/346) であった。一般化推定方程式法による検討では、LSIMはCTPAに対して感度、正確度、陽性及び陰性尤度比において有意に優れていた (P<0.0001)。 これらの結果より、LSIMはCTEPHの区域毎肺血流評価において、CTPAと比較して有意に高い診断能を持つことが明らかとなった。				